

令和2年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関するワークショップ（第1回）

【 議 事 概 要 】

日時：令和2年10月6日（火）13：00～15：00

場所：とから館 鳳凰の間（2階）

出席者：《ワークショップ参加団体》

団体名	氏名	備考
帯広ウチダザリガニ・バスターズ	鏡 坦	
川と河畔林を考える会	高倉 裕一	
NPO法人十勝多自然ネット	加藤 滋二	
日本野鳥の会十勝支部	飯嶋 良朗	懇談会構成員

《有識者構成員》

氏名	専門分野	所属等
加賀屋 誠一（座長）	自然災害科学、都市工学	北海道大学 名誉教授
飯嶋 良朗	鳥類（一般鳥類）	日本野鳥の会十勝支部 監事
持田 誠	植物	浦幌町立博物館 学芸員
澤村 寛	地質	足寄町動物化石博物館 特任学芸員

《有識者構成員 欠席者》

柳川 久	野生動物管理学	国立大学法人帯広畜産大学 副学長
山本 純郎	鳥類（シマフクロウ）	環境省シマフクロウ保護増殖委員
石垣 章	淡水魚類	十勝川の生態系再生実行委員会

《オブザーバー》

氏名	所属等
上村 兼輔	環境省 釧路自然環境事務所 阿寒湖自然保護官事務所 国立公園管理官
岡田 信善	北海道森林管理局 十勝東部森林管理署 主任森林整備官
村石 靖	足寄町役場経済課商工観光振興室 室長
岩淵 堅志	足寄町役場建設課建設室 室長

《帯広建設管理部》

氏名	所属等
橋本 雄太	十勝総合振興局帯広建設管理部 事業室長
寺越 孝則	十勝総合振興局帯広建設管理部 事業室地域調整課 地域調整課長
川尻 利行	十勝総合振興局帯広建設管理部 足寄出張所 所長
井馬 俊安	十勝総合振興局帯広建設管理部 事業室道路課 道路課長
三城 圭吾	十勝総合振興局帯広建設管理部 事業室道路課 主査（道路）
和田 昭一	十勝総合振興局帯広建設管理部 事業室道路課 主幹
深澤 亮雄	十勝総合振興局帯広建設管理部 事業室事業課 主査（道路第5）
古川 友啓	十勝総合振興局帯広建設管理部 事業室事業課 技師

令和2年度 一般道道モアショロ原野螺湾足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関するワークショップ（第1回）

日 時： 令和2年10月6日（火）13:00~15:00

場 所： とかち館 鳳凰の間（2階）

次 第

- 1 開 会
- 2 参加者紹介
- 3 ワークショップ設置要領について
- 4 あいさつ
- 5 事業経過
- 6 令和元年度 第1回WS開催時質問・意見について
- 7 令和2年度 事業計画について
- 8 令和2年度 自然環境調査結果中間報告及び予定
  - 1) 植物類：(株)ズコーシャ
  - 2) 鳥類：(株)北開水エココンサルタント
- 9 住民との協働による環境保全について
- 10 意見交換
- 11 閉会挨拶

- ・ 資料-1 懇談会設置要領
- ・ 資料-2 懇談会の公開について
- ・ 資料-3 懇談会の公開について（別紙）
- ・ 資料-4 ワークショップ設置要領
- ・ 資料-5 構成員名簿
- ・ 資料-6 参加団体名簿
- ・ 資料-7 説明資料（事業経過、R1 第1回WS開催時質問・意見について、  
事業計画について、R2年度自然環境調査結果中間報告と予定、  
住民との協働による環境保全について）

## ワークショップ 意見交換会

### 【溶岩空洞部の状況】

澤村：

- ・12P ボーリングは試験的な段階のものだと思いますが、工事に入る前にもっと細かいボーリングデータは取るのでしょうか。
- ・塊状溶岩が数メートルから10メートルなどゴロゴロとあると思うのですが、12Pの断面図には塊状溶岩が見当たらず層になっている。これ以上ボーリングを行わないようですと問題かなと思います。
- ・現地に行くと10m横に移動すると塊状溶岩があったり空洞があったりこの断面図と逆転することもある。

建設管理部：

- ・弾性波試験のデータを確認し整理したうえで提案させていただきたいと思います。

### 【法面緑化-外来種対策】

持田：

- ・20P 外来種以外にも施工後の様子を見て他の種も考えていくということによろしいでしょうか。

建設管理部：

- ・2種に限定したものではありませんので、状況によって他の種も考えていきたいと思います。

### 【法面緑化-在来種による法面緑化】

鏡：

- ・19P 永久コドラートとは今後ずっと、どのくらいの頻度でいつまでやるのか。10、20年のスパンでは考えないのか、工事後の変化を知見として共有できるものとして残すのが重要だと思う。

建設管理部：

- ・工事後に数年モニタリングを行う考えですが、具体的な年数は決まっていません。今回のご意見を踏まえ検討させて頂きたいと思います。

加藤：

- ・17P 植生基材の吹付は在来の種か外来種の種か。
- ・49P 溶岩の所に植物は育つか。在来種を採取する際、岩盤の所の植物も採取するのか。またどのような種類があるのか。

建設管理部：

- ・在来の種で考えています。

ズコーシャ：

- ・今回の試験では岩盤を2mm位に破碎した土を使って行いますので水分量としては大丈夫かと思いますが、実際の工事においては別な形で確認した方が良いでしょう。
- ・一般的には岩盤のコケの所に生えるものが多いです。種類については今お答えできません。

### 【鳥類調査】

飯嶋：

- ・タンチョウが今後営巣すると考えられるので、営巣期に営巣調査を実施することが望ましい。
- ・クマタカの幼鳥も近くに営巣木があると考えられるので、繁殖状況を確認しておく必要があると思います。

建設管理部：

- ・営巣調査については、クマタカは本年実施可能で、タンチョウは来年以降に実施を考えていま

す。

山本：

- ・クマタカは急斜面に繁殖するのが多いのですが、平坦なところで繁殖するのを見たことがあるので、斜面にこだわらず調査していただきたい。

#### 【昆虫調査】

鏡：

- ・30P ムカシトンボは何処で採取されたか。採取方がベイトラップとライトトトラップとあるがどちらか。もし川で採取されたのなら川の採取法で昆虫の実態を調べることができるので。

#### 【環境配慮型側溝】

高倉：

- ・31P トラフの維持についてどのように考えているか。

建設管理部：

- ・維持管理に関してはマニュアルがありますのでその中での対応という形にはなるとは思いますが、今後維持の方とも話して検討していきたいと思います。

#### 【植物調査】

持田：

- ・緑化種として適切なものは量的にもなかなか難しい。外来種の侵入をくい止めるという意味では在来種に重点を置いて法面緑化の可能性を探りますが、この調査結果によれば、緑化種として育成されている外来種と栽培種を併用するような方法を考えていかなければならないかと思っています。

現地で調達する在来種で緑化をすべてカバーするのは非常に難しいと思いますが、重要なデータとなるので引き続き調査結果を期待したいと思います。

- ・道路施工後のモニタリングや道路維持については、住民やオンネトーを利用する来場者を含めた方策を検討する必要もあるのかと思います。

加賀屋：

- ・在来種による緑化は大事ですが、量的な問題もあるだろうし色々な形で少し範囲を広げて考えることも必要であると思います。
- ・維持管理においては、住民参加型のシステムをどの様に取り入れ、どの様にしていくかこれから議論していかなければならないと思います。

#### 【住民との協働による環境保全】

持田：

- ・住民協働の環境保全の時期が10月になったのは、来年度のほうが観察できるのでは。

建設管理部：

- ・コロナ過で遅れましたが、来年度のいい時期に環境調査、現地確認を行いたいと思っています。今回は国立公園内を見るという趣旨で提案しています。

持田：

- ・現地確認は構成員で行くのか。

建設管理部：

- ・ワークショップに参加されている方々にお声がけをしたいと考えています。

加賀屋：

- ・この住民とはどのような範囲で考えておりますか。
- ・グリーンワーカー事業とはどのようなものでしょうか。

**建設管理部：**

- ・足寄町、雌阿寒自然塾と検討して行き、いずれはワークショップを中心として、地域の方や学校の方との勉強の場になったらと考えています。
- ・環境省と民間団体が随意契約を結ぶ形で実施していく。詳細については今後環境省と確認しながら行っていきたいと考えています。

**【遺 跡】**

**持田：**

- ・この区間には、遺跡などの包蔵地はないのでしょうか。一度確認していただきたい。

**建設管理部：**

- ・この地区に関しては教育委員会からはそのようなものがあるとは聞いていません。

**持田：**

- ・奉斎物などが畑から出てくることがありますので、その辺も教育委員会に確認していただきたい。

**加賀屋：**

- ・教育委員会に問い合わせて確認していただきたい。

**【防 災】**

**高倉：**

- ・雌阿寒岳火山防災協議会の中で今どのような進行状況で何が議論されているのか、シェルターについてはどのような検討がなされているか。資料を出していただきたい。
- ・雌阿寒岳が噴火したときに、近隣の町村がソフトの面でどのような防災の町づくりが進んでいるか知りたい。ハザードマップをどの様に街づくりの中で活用しているか。資料をぜひ提供していただきたい。

**建設管理部：**

- ・検討させていただきます。

**【住 民】**

**加藤：**

- ・道路ができた時モアショロ螺湾線は交通量が今より増えると思います。地域の声は聞いているのでしょうか、近隣に住む住民の環境なども考えてあげてもいいのかなと思います。

**加賀屋：**

- ・道路供用後、広域に考える必要はありますが、とりあえず足寄町のほうでこれから住民に対しどういう形でこれをアピールしていくかということも考えてほしいと思います。  
防災は町づくりの重要なポイントの1つであると思いますので、足寄町がこれからどういうまちづくりをするかということに関わってくると思います。それも含めて今後いろいろご意見いただければと思います。